



石堤っ子

高岡市立石堤小学校

学校だより NO. 8

平成29年3月16日

いよいよ卒業式・修了式

明日3月17日（金）は、石堤小学校の第123回卒業証書授与式、3月24日（金）は平成28年度の修了式です。いよいよ平成28年度も大詰めです。

先日発行された育友会の広報に「進んで…」と言うことについて書きましたが、最近の子供たちの様子を見ていて、ちゃんと力が付いてきていると思いました。

ゴミ捨て場やグラウンドの出口を掃除している6年生の男子は、誰も見ていなくても一人で黙々と掃除をしています。床が終わると下足の棚の汚れに気付き丁寧に水拭きを繰り返していました。1年生の教室周りを掃除している6年生の女子は、下級生にしっかりと指示を出しながら掃除を進めていました。また、本校でインフルエンザが流行し、担任が休んでしまった学年の授業に出ましたが、子供たちは「ドリルのこのページまでできるからそれをやって、終わったらプリントをやって…」と相談しながら45分の流れを自分たちで考えて進めていました。他の学年でも、算数の問題を出したら、自分の考えをノートに書き、発表し合い、分かったことをまとめることができていました。

このように、学校生活や授業の場面で、「進んで」行動している子供たちの姿を見ることができました。この1年頑張ってきた子供たちの成長を見ることができ、とてもうれしく感じました。立派に卒業、そして現学年を修了できます。

褒めて伸ばす…

「奇跡のレッスン」（NHK）という番組をご存じでしょうか？

世界の一流指導者が、1週間子供たちに特別指導するという番組です。

褒めて育てることについて12月に書きましたが、番組を見ていて思ったことがあります。

以前、ニュージーランドのラグビーコーチと交流させてもらったことがあります。そのコーチは練習中とても大きな声を出し続けます。そして、よいプレーを褒め続けます。失敗したら「プレゼント！」と言って、腕立て伏せをさせることもあります。しかし、失敗を責めることはありません。「考えてチャレンジして失敗することはいいこと。」「練習がうまくなる練習はしなくていい。」と語っていました。何回かの番組を見ていて、スポーツの指導者、合唱の指導者、絵の指導者等、様々な指導者がいましたが、基本は一緒だなあと感じました。褒めるときに漠然と「すごいね」「えらいね」と言うだけでなく、具体的にいいところを教えるということです。

褒められると充実感や達成感を感じ、やる気を起こすことができます。しかし、何がよかったかが残りにくくなります。具体的に教えられるとそれが記憶に残り、自分の取組のよさに気づき、それを積み重ねやすくなります。例えば、掃除をしているときに「掃除頑張ってるね。すごいね。」と言うより、「ぞうきんの絞るとき縦絞りで水がよく切れているね。」「隅のところを丁寧に掃いているのいいね。」と言った方が子供には伝わりやすいと思います。

そのためには、子供をよく見ることが大切になります。私たち教員も子供たちをよく観察し、実態を捉え、適切な言葉を掛けて伸ばしていかなければならないと改めて感じさせられました。

今年度、皆様には本校の教育活動に温かいご支援・ご協力をいただき深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

※子供たちの日々の活動の様子はホームページをご覧ください。